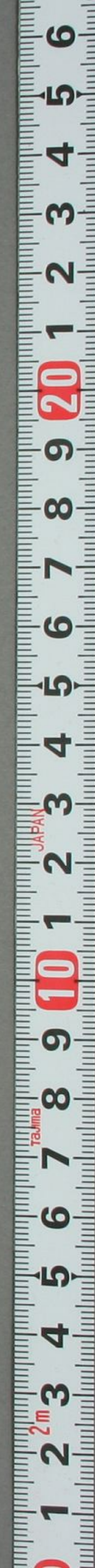


4
4354
1



4
4354
1-2



拜郷 蓮茵著述

ちんまのむらじふ

上

梅花園遺書著述

ちりまのりあみ

京都 正宝堂

巷の石あみのたしこの花
よの夜しのさし母きよのしらたて外あのみ
字のうとあふまのうん堂のふせと紫ぬる物のう
遠くはけし舞の毛と晴しと心あたるか
かく中々宝園乃河天尔を波の音はく
妙なる形以やまを志る人乃稀なる付歌ら
きさ事からまやあみよりうさる
人あるあかり小学校の物せふは教沙

巷の石あみ

何とは必^し止^りた^るを^は波^のあ^らみ^のう^らげ^をい^く
人^の毎^のよ^のい^のち^の家^の乃^の詞^の悉^く五^の中^の連^の歌^のと^を
出^て自^他過^現未^斷續^の義^をあ^らわ^す天^の尔^を
き^は波^の依^を乃^のは^のい^のひ^のさ^のす^りの^まさ^のす^て
お^のつ^のう^のに^の係^の格^をあ^らわ^す猪^のり^には^の魚^を
未^の物^をは^のあ^らわ^すは^のあ^らわ^す湯^をを^りて^は
乃^の火^をを^りて^はの^まの^まの^衣を^磨以^ては^の汗^を
を^あら^わす^のこ^のか^をし^らは^す湯^をを^りて^は

い^のれ^のあ^らぬ^を火^をと^りて^は火^をを^りて^は遠^く
あ^らわ^すい^のち^のか^の毎^の係^の格^を遠^く時^は
そ^の事^を笑^ひ難^くい^のち^のえ^のち^のぬ^のち^のち^の
い^のち^の公^のせ^のい^のち^のい^のち^のい^のち^のい^のち^の
浮^のの^の蓮^の菌^の翁^の若^のの^のた^のの^の碑^のい^のす^の
い^のち^のの^の乃^の書^のの^の体^のよ^のの^のた^のの^のい^のち^の
係^の詠^をを^りて^はい^のち^のい^のち^のい^のち^のい^のち^の
あ^らわ^すい^のち^のの^の根^のの^のい^のち^のの^のい^のち^の

こけ條垣をたて、物学此とて
の字さとり知安らん為と物せれり
此れは物みを出るごとく七箇の道
みこん入なる候ふも惑をすおそれな
うとて魚のおのま安政のうとて
おさかなをうとて常とて
字もし物みしてその片をを
ゆきり此れのみの子らひとて

まことおとて種々の海に
とておとて種々の海に
とておとて種々の海に

明治十年録

從三位宋実政

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

其之之之之
上因因因因因
低音音音音音
去去去去去
在在在在在
文文文文文
行行行行行

の四十一番を中流に
筆の古経書

大なる心よる



Faint background text in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side.

蓮首述



ちりしめ乃石布ふ
歌ふもふも我流うふいあも更ふもして自國すれいふ
そは... 必河の流又天を波の例格を志しん有べうん
る哉志しむハ五十連韻をよし...
考者... 五十韻と... 次ハ河の... 上... 辞の
何格と... 初學... 後... 心... 易... 人... 為... 其... 人... 毎
小物... 肺中... 小... 風... 肝... 心... 脾... 腎... 鼓動
して聲... 起... 受唇舌牙齒喉の五... 外...
る... 幾... 奇... 妙... 其...
悉く五十韻字... 奇... 妙... 其...
有... 諸阿... 聲韻... 堅... 韻... 横... 九... 色... 別... 音... わ... び

といふはれとも一帯に微陰なる阿乃音あつて息の出入
 へ過すはる流まへ人命なりし事あつて凡そ阿字
 才一命ともいふありは阿より經より伊字衣於乃四韻とせし
 一緯めきより加尤多取波麻也良和の九声哉中よりふまは
 大極陰陽西義よりわれも義五行とせしして糸物を造化
 すら如しつらある肝ハ木心ハ火脾ハ土肺ハ金腎ハ水
 屬とさう社醫五臟即水火木金土の五行なりするの五臟
 ありて日よ出る五音れまへ五音と又五行より假令ハ水
 より起る浪ハあむ波歌まてるちとせし如しわつし緯
 字衣於の四韻より母のこころを多取波麻也良和乃
 九をら父のいより相婚姻あひまて三十六子さる子聲こゑ加伊の

切ハ反切 縮音マ 扱加字の切久加衣の切計加於の切古とれりて扱久計古
 の四の子音とるみた伊の切志尤字の切須衣の切世衣於の
 切常とれりて志須世曾の四の子音とるむ多那波麻也良
 和とせし準へてかへしとるも二十子さる子聲の四韻
 と緯の九聲とと三十六子音と本音の阿と哉合とそれハ
 五十連類ととるれりともかたも波の四行と濁音よりハ
 七十さるとれふは七十音とありし緯とてあ言系語限事
 たりはと波れしを子局よりあまはるはと煙波のばり
 かく比よる卑のびのめくふと匹夫のぶのこく戔と權柄
 のべのこく保字一歩のぼのめく呼あ哉半濁とと拗音
 とよいへ唇と彈きへよまきれりたよハ一遍日本合羽扱

乃如く漢籍字のむ時、用お日本の詞のふあるのり、
 さては五十韻、いひの代り、ふくの装作ありしもの、れんと
 度く、佐抄手撰りしとむれとも、性より、後代又と、多田義後
 の本語口傳り、孝德天皇の御宇、吉備の大臣入唐して、王化
 云々、ついで日本語と語られり、王化云々、それ字音の直
 て阿伊字衣於等のまを、代り、く、大臣ふあ、くらま
 一、それ、れと、既小天竺、釋迦佛在世、小大日經の字輪、品
 設せ、れ漢土ふを、魏の本字、登り、ふく十四音と、は、梁乃
 沈約といふ人、三十六字母と、つ、て四聲、と正せり、と、え、り
 五十韻といひ、それ、と、あ、の、法、の、符、合、せ、り、され、は、我、後、の、
 後、の、時、推、と、我、あ、り、と、釋、の、契、仲、の、和、字、正、監、抄、一

天地と、れ、ふ、出、ま、り、物、と、く、他、ふ、い、あ、る、も、と、ハ、石、中、の、
 火の、燄、字、待、て、出、る、か、と、い、れ、り、後、そ、う、い、ふ、天平
 改元の年、履殿の兼塵、小天下太平の文字、存を、
 思ひ、併、と、し、ち、の、み、り、牛、毛、馬、毛、石、面、を、と、り、
 顯、れ、た、史、一、及、今、法、を、と、徳、せ、り、所、牧、奉、と、り、
 ら、る、又、後、秘、符、誦、の、序、に、空、中、雲、中、に、本、有、の、字、と、
 免、上、を、上、り、月、出、の、文、字、漢、と、い、ふ、ハ、か、ら、
 され、漢、の、語、ハ、火、な、れ、と、む、の、五、音、と、出、さ、れ、
 の、國、と、も、五、十、韻、あ、り、と、い、ふ、日本、計、五、十、韻、支、那、の、
 三、の、五、十、韻、あ、り、と、い、ふ、英、吉、利、佛、若、西、亞、墨、利、加、
 以、外、の、國、と、い、ふ、と、も、五、十、韻、あ、り、と、い、ふ、

或人問ていそく五十韻ハ自然の物して人作少きある
 ちりけ陰るるぬされ候人毎に常にいふ詞をその
 乃りあて悲しく五音備そりといふ魚しさる哉又
 のう小の女を思けく天尔をばの詞不調字といふ
 いうふぞや答ていそくたは春の鳥の花よりなき其れ雷
 のう小惠ま秋の席のまをばひをけ風の松をかずびを
 一たは四時の運いんぎんふさといひてねのり宮高角微羽乃
 五音備そり志らぬる冬に忍生由のゆくへのわびふ
 て鳴らそ物あそそめくの甚る候をいふありあそく調
 子よくととのひもあそそめそのあそ推おしあして面わくも
 怨うらみ一久もすえさうあるはるあそくあそくさすまじ

春の歌のすさきしよふさうらりし天尔をば乃調ふ調ふ
 ちりけいそくいそくいそく

五十連韻配當圖

春の歌

脾 <small>李夏 土</small> 黄 <small>喉 宮</small> 和	心 <small>復 火</small> 赤 <small>喜</small> 徵	脾 <small>李夏 土</small> 黄 <small>喉 宮</small> 也	腎 <small>冬 水</small> 黑 <small>唇</small> 羽 <small>波</small>	心 <small>赤</small> 徵	复 <small>火</small> 喜	肺 <small>秋 金</small> 白 <small>商</small> 九	肝 <small>春 木</small> 青 <small>角</small> 加	脾 <small>李夏 土</small> 黄 <small>喉 宮</small> 阿
ウ <small>ア</small> 切	ル <small>ア</small> 切	ム <small>ア</small> 切	フ <small>ア</small> 切	ヌ <small>ア</small> 切	ツ <small>ア</small> 切	ス <small>ア</small> 切	ク <small>ア</small> 切	一
為	利	美	比	仁	知	志	积	伊
ワイ切	ライ切	マイ切	ハイ切	ナイ切	タイ切	サイ切	カイ切	ニ
宇	留	武	布	奴	津	須	久	宇
ワウ切	ラウ切	マウ切	ハウ切	ナウ切	タウ切	サウ切	カウ切	三
惠	礼	衣	女	閔	祿	天	世	計
ワイ切	ラエ切	ヤエ切	マエ切	ハエ切	ナエ切	タエ切	サエ切	カエ切
遠	呂	與	毛	保	乃	止	曾	古
ワオ切	ラオ切	ヤオ切	マオ切	ハオ切	ナオ切	タオ切	サオ切	カオ切
								於
								五

四種濁音				
半濁音	が	ぎ	ぐ	げ
	が	ぎ	ぐ	げ
	だ	ぢ	づ	で
	だ	ぢ	づ	で
	ば	び	ぶ	べ
	ば	び	ぶ	べ
	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ
	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ

言詞辭乃三の差別を志す事

清濁半濁と合をれ候
七十五音とたる但し
半濁の音ハ日本語ハ
有るれ漢籍とよ
み洋語と學ぶ人少
必用はるれハ周小
卷

けこそは詞の通しは大隈より身實小をかれはあそぐ
ハ詞の通し踏惑いさや咫尺の遠いついふ子星哉あや
ちんせしはまはあらせは有るは言ハ体言

詞とい用語辞とい天尔を波たりけ名りふとく有るある
 區別字といけふは安物物也やをより故に假し没けし
 その体づくに五種用語語六種辞小活用中無活用その外
 とはくくのらも又あり可所ふとくくつへ一今体
 用辞のこらふの丈略字とい月言花を体言照る景
 ふるもあはれ嘆くもあはれどは用語照る人思を照るふ
 かつゆ又女子嘆るんそあはれさうとのらもべーたり又るん
 ともい子天尔を波とい市たり

体言小五種のらも又ある中

一は有形体言山河草木月花雲霧雨雪國名地名
 人名器物の名鳥獸虫魚草の類子いおれま

二は無形体言春秋冬夏陰陽聲響その外物事
 彼是故をいけつ中一物事彼是をたはけその
 その事この山といの國惟をたしてしこしていおれま
 体といふなり

三は用語体言霞紅葉時雨立溜舞躍その外
 五種詞の才二等といひさげめて物の名しとてさふ波いふなり
 五種詞とい四段の活用一段の活用中二段の活用下二段の活用変格の活用といひ
 形容詞と合し六種詞といふなり下きては名といふおれまなり
 四は重々悟体言玉琴玉柳山川谷伝旅路月日ま風冬は
 海風いや春衣はさぬ言山を里長刀横笛投矢はより片
 体とい体と代合せ体とい用語とを合せなりして一川の物
 の名といふなり子といはし

春の風

○才一等は成りけり。やハ欲する意才五等成りけり。何をやの意を推量の辞と云ふ。

○才一等字はかゝるたむハ命令才二等成りけり。ハの意然する意但しより未然の意可なり。ハ推量の意と云ふ。

（Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

語	用	活	乃	段	四		
行良	行麻	行波	行多	行左	行加		
渡釣	憐任	憊逢	満打	指押	吹飽	詞の	意
ら	ま	は	た	さ	か	然將	才一等
る	む	ト	下	め	ぬ	辭	
り	み	ひ	ち	ま	き	然既	才二等
る	む	ふ	つ	ま	く	辭	
る	む	ふ	つ	ま	く	在現	才三等
る	む	ふ	つ	ま	く	辭	
る	む	ふ	つ	ま	く	辭	才四等
れ	め	へ	て	せ	け	辭	才五等
れ	る	り	ら	ら	ら	辭	

（Vertical text on the left margin of the left page.)

十二

中 二 段 の 活 用 語

行加 行多 行波 行麻 行也 行良 行和

起過 閉落 侘戀 恨試 報老 懲奮 率

か り い み ひ ち き

よ り ち ち ち ち ち ち

か り い み ひ ち き

か り い み ひ ち き

ろ ろ ち む ふ つ く

ろ ろ ち む ふ つ く

ろ ろ ち む ふ つ く

ろ ろ ち む ふ つ く

れ れ れ れ れ れ

や ち ど ば

卷の...

十三

一 段 の 活 用 語

行加 行奈 行波 行麻 行也 行和

著似 煮于 噴見 鑄射 居

か い み ひ に き

よ り ち ち ち ち ち ち

か い み ひ に き

か い み ひ に き

か い み ひ に き

か い み ひ に き

か い み ひ に き

ろ ろ ち む ふ つ く

れ れ れ れ れ れ

や ち ど ば

卷の...

十三

語用活乃拾變

行良 行奈 行尤 行加
居有 死往 爲 來

ら な せ こ

ら な せ こ
ら な せ こ

り に 一 き

り に 一 き
り に 一 き

り ぬ 片 く

り ぬ 片 く
り ぬ 片 く

る ぬ 片 へ

る ぬ 片 へ
る ぬ 片 へ

れ ぬ 片 へ

れ ぬ 片 へ
れ ぬ 片 へ

語用

行和 行良 行也
植飢 晴枯 榮消

え れ え

え れ え
え れ え

え れ え

え れ え
え れ え

る へ へ

る へ へ
る へ へ

る へ へ

る へ へ
る へ へ

れ ぬ 片 へ

れ ぬ 片 へ
れ ぬ 片 へ

活乃段二下

行麻 行波 行奈 行多 行尤 行加 行阿
諫譽 加辨 尋兼 撫捨 任瘦 授受 得

め へ ぬ て せ け え

め へ ぬ て せ け え
め へ ぬ て せ け え

め へ ぬ て せ け え

め へ ぬ て せ け え
め へ ぬ て せ け え

む ふ ぬ つ す く へ

む ふ ぬ つ す く へ
む ふ ぬ つ す く へ

む ふ ぬ つ す く へ

む ふ ぬ つ す く へ
む ふ ぬ つ す く へ

れ ぬ 片 へ

れ ぬ 片 へ
れ ぬ 片 へ

雜

しきおふざりたる又和名抄に卷子楊子の漢語抄了
 閉蘇麻麻圓卷名也なり然みみり西京西陣の
 あつりお織物字書手とせりしはな奴婢と云ふ字
 べりそのおととある老翁のつく系哉縁とてきて
 乃名ると卑俗の語なり海とてこれハ蹴縁とも
 お下一段の活申語と決むべし但しはよき語は後入
 うかみ改定縁とす

詞	一段	下
行波	行加	行蹴
綜	へ	け
へ	へ	け
へ	へ	け
へ	へ	け
へ	へ	け
へ	へ	け

此のころはあはれ辞をきりてよお出せり一段の活申お向はれり今てあらし

体言とそ	薬	ら	ら
らたろ何	堅	めむ	めむ
四の活語	飽	む	む
乃才五音	押	トむ	トむ
り変格	打	で	で
良行の音	逢	ら	ら
とある有	住	む	む
居候を	釣	む	む
波			

六種詞活用乃證歌

この後文小悉く一二三四五の予哉附るハその活申詞の等位
 字をりてはむかひなりたし加行四の活語の係をり
 べりしむぬとあはれぬむぬぬとてしむし辭の才一等なり
 ぬぬとてしむぬぬとぬぬぬぬのぬハ平のぬと

才二等... 我ぞか... の係... けの活用...

四段の活用

加行 聞か き く け

夕月夜... けの羽根... 余不...

九行 交 せ せ せ

あち... けの... けの... けの... けの...

昔の事

何はうの事さうしある夜田よの事さうしあり
あひらひておもしろい日神を祀る月に入信する
おもしろい事さうしある月に入信する
因りてあたり四角の中使乱の活字字ふくははれし
てみせしんよふし
さうしある事さうしある事さうしある事さうしある事

ぬふりよ。いふ事さうしある事さうしある事
あつたの事さうしある事さうしある事
さうしある事さうしある事さうしある事

一段の活用語

はあ、い、え、の、辞、と、事、の、み、ま、は、あ、く、ハ、一、ま、あ、ま
お、う、さ、う、く、ハ、下、の、巻、一、え、ら、し、の、下、を、川、合、せ、て、ら、れ、く、

加行 著き き きる きる きれ

横巻の事さうしある事さうしある事
なる事さうしある事さうしある事
この事さうしある事さうしある事
さうしある事さうしある事さうしある事

奈行 煮、よ、よ、あ、あ、あ、あ

は、の、み、ま、は、あ、く、ハ、一、ま、あ、ま
お、う、さ、う、く、ハ、下、の、巻、一、え、ら、し、の、下、を、川、合、せ、て、ら、れ、く、

さうしある事さうしある事さうしある事
さうしある事さうしある事さうしある事
さうしある事さうしある事さうしある事
さうしある事さうしある事さうしある事

昔の事

料の... 七十九

波行 噴い い い い い い

井 彦はやおもま... 万 万 右

麻行 見み び び び び び

雁の... 後 右 拾 後

也行 射 射 い い い い い

俸弓... 夫本 和行 居か かね かね かね かね

お梅も果... 万 万 万 万

中段乃活用語

加行 過 起 き せ ぐ くる くれ

ふの... 尾上の...

巻の...

下

巻之三 麻行 歌上

りまをうつひあをきつるまのよはき一月ねまそとびりくる

つまよふたもいへるはなをききあのかんい歌きぬいあひま

女をゆきありにとるのいぢりある田か山ふりあふとあふハ

多行 栞落 ち ち づ づ づれ

五月あはれあのにふれは流るあはれあふりしちちあ

思ひせしめあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

老よるよるいも歌あのかんいあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

波行 恋い じ ぶ ぶ ぶれ

秋の尾をきつるまのよはき一月ねまそとびりくる

麻行 歌上

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

麻行 恋い じ ぶ ぶ ぶれ

試の情用を麻行段とすは麻行を麻行とすは麻行を麻行とすは麻行を麻行とす

麻行 歌上

麻行 歌上

権の二行の... 止

占 今何しは... 恨で... 忘れぬ... 也行

也行

兼

い

い

ゆ

ゆ

ゆ

用い... 兼... 良行

良行

兼

り

り

る

る

る

たの... 加行... 下二段の活用語

下二段の活用語

阿行

得

え

え

え

え

加行

兼

け

け

け

け

立内川... 頼政家集

立内川

六二

昔の山吹の歌

昔 昔の山吹の歌はさり秋のれい三田川に花のぬきぬきと
かゝる物とて世はあふらふかきて明けの光のまはるる
九行 假せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ

木はくまの影の月川小なまを誰か月せしつらつら
万八 万八の影の月川小なまを誰か月せしつらつら
秋とて 秋とて 秋とて 秋とて 秋とて 秋とて 秋とて 秋とて 秋とて 秋とて
同轉用 せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ

万 万の園のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
古 夢のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
子 山吹のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま

多行 假せ 假せ 假せ 假せ 假せ 假せ 假せ 假せ 假せ 假せ

於 於のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
長 長のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
古 古のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
六帖 六帖のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま

於 於のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
古 古のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
古 古のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま
古 古のまなみよひてあせつさすのさけしそまのま

巻の終り

老成... 七

^古 空川のら下... ^古 折れ... ^古 いくよ... ^古 むの...
① 折れ... ② 世の... ③ 薄の... ④ 流...

同轉用

^古 りれ... ^古 あり... ^古 あり... ^古 あり...
① 折... ② 折... ③ 折... ④ 折...
和行 植 創 五

^古 夢... ^古 も...
① 夢... ② も...

變格乃活用語

^古 加行 來... ^古 近...
① 加... ② 來... ③ 近...
九行 爲 せ

卷の...

宿を梅をさしあそびて行くの身もあや アサタヒ

山里をめぐりてさしづる人月もあや ハヒシサ

今もあやとけぬかよりのあや ヨロル

秋のあやとたのむ ドレカ

あやとたのむ ヨソ

あやとたのむ ヨソ

あやとたのむ

五行の才三子 ハヒシサ

あやとたのむ ヨソ

ハヒシサ

後

曉乃鐘 アカツキノカ子リキコエ

体言 アサタヒ

右

あやとたのむ ヨソ

あやとたのむ ヨソ

日

あやとたのむ ヨソ

日

あやとたのむ

あやとたのむ ヨソ

昔の... 三二七

後 西よりてあすはり夕てるの川...
コヨロヨソニコロントミタカイイヤウサウハミナナタニ
昨日の... 早苗トツタガ

辞小重ゆてかけらる格

後 又ぬの取る人がて... 杖のせはるの用も...

あき あー あー

五條河のオニ等... 何々 ターデアツタ

古 かき... 心のあふ...

日 志での山... つか...

後 新 入重... 色と...

後 たら... ちま...

ハカナクマレターデアツタガ

五條河のオニ等... 何々 ターデアツタ

てき

是とて... 何々 ターデアツタ

後 何年ナキフルシタデアアラウ

古 何年ナキフルシタデアアラウ

後 何年ナキフルシタデアアラウ

赤...

三十八

[Blank page with significant water damage and staining, particularly a large brown stain in the lower right quadrant.]

Handwritten text in a rectangular frame, including a large, faint watermark or bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

Vertical handwritten text on the right margin, possibly a title or page number, written in a cursive script.

Small handwritten text or mark at the bottom right corner of the page.



